

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502413		
法人名	医療法人社団 弘恵会		
事業所名	グループホーム 生きがい		
所在地	札幌市白石区北郷2条11丁目3-20 (電話) 011-871-5005		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区南3条東2丁目1		
訪問調査日	平成21年1月22日	評価確定日	平成21年2月7日

【情報提供票より】 (20年 12月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 11月 26日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算 13.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	4 階建ての 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円 (生活保護35,000円)	その他の経費(月額)	光熱水費22,000円 暖房費(11-3月) 10,000円	
敷金	有 (100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 () 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

(4) 利用者の概要 (12月 25日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 83.5 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	整形外科内科沢口医院、勤医協札幌歯科診療所
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム生きがいは、医療法人が母体となって、医院、介護老人保健施設、デイケアセンター、居宅介護支援事業所と共に運営されている高齢者事業グループの一つである。これら4つの事業体は4階建ての一つの建物に併設されており、共同運営の利点を共有しあっている。医療関連事業と一体化している上、管理者(ホーム長)が看護師であることもあって、医療面での対応は手厚く行き届いており、利用者、家族の大きな安心の元になっている。専用スペースが広く、居住空間のほかにもレクリエーションや会議、休息用など、多彩な生活空間を提供している。管理者および職員相互の信頼関係は良好で、異動も少なく、安心の持てる安定した介護を実現している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の課題で、理念については昨年改訂して地域住民との交流を盛り込み、終末期介護への対応については家族の意向を確認して事業所の方針を明らかにし、災害対策については近隣との協力関係構築を推進中である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価用紙を全職員に配布して所見を求め、ミーティングで意見を寄せ合い、管理者がまとめて評価を作成した。そこから改善課題を見出して新たな取り組みに反映させ、職員の日常業務の再確認に役立っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議ではホームの活動の状況、利用者の生活の様子、行事計画・結果、地域連携の状況、行政による実地指導の内容、自己・外部評価の結果などを報告・討議している。家族の要望によって、介護保険制度について、地域包括支援センター職員を講師として勉強会を開いたこともある。また運営推進会議の内容は職員全員に伝達してサービス向上に生かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安は意見箱を設置し、外部の受付窓口を明示して受付体勢を整えている。家族の来訪の折など、気軽に意見を言えるような関係作りに努めており、積極的に聞き出すように心がけている。要望などがあった時は職員の報告を受け、ミーティングで討議して改善につなげている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に加入して運動会や盆踊りなどの行事に参加し、町内会報に記事掲載の便宜を受けることもある。ホームや併設事業所の文化祭などの行事には地域住民も招いて交流している。近隣のグループホームとも相互に行事参加で交流している。小学校の運動会や発表会に参加し、小学生をホームのクリスマス会などに招いている。中学生の体験学習も受け容れている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の人格と意思を尊重し、笑顔で、人の輪を大切に、ストレスのない生活を提供する、という従来の理念に、地域住民とも豊かな交流をもつ、という内容を新たに付け加えた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はスタッフルームに掲示して日常的に目に触れるようにしている。ミーティングで議論が迷走しそうな時などは管理者が理念を指摘して軌道を整えるなど、理念は常に運営の指針となっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して運動会や盆踊りなどの行事に参加し、町内会報に記事掲載の便宜を受けることもある。ホームや併設事業所の文化祭などの行事には地域住民も招いて交流している。小学校の運動会や発表会に参加し、小学生をホームのクリスマス会などに招いている。中学生の体験学習も受け容れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価用紙を全職員に配布して所見を求め、ミーティングで意見を寄せ合い、管理者がまとめて評価を作成した。そこから改善課題を見出して新たな取り組みに反映させ、職員の日常業務の再確認に役立っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動の状況、行政による実地指導の内容、自己・外部評価の結果などを報告・討議している。介護保険制度について、勉強会を開いたこともある。また運営推進会議の内容は職員全員に伝達してサービス向上に生かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の担当係とは頻りに連絡を取り合い、事業所の運営基準などについて、気軽に相談できる関係を築いている。また区役所とも、おむつなどのサービス利用や、認定に関する相談など、連携を密に取り合ってサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に4回、「四季だより」を発行してホームの様子、生活ぶりを家族に知らせ、併せて金銭出納報告も送付している。必要に応じて随時、また家族の来訪の際は個別の状況を詳しく報告している。職員の異動は当該利用者の担当職員変更として家族に知らせている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見は意見箱を設置し、外部の受付窓口を明示して受付体勢を整えている。家族の来訪の折など、気軽に意見を言えるような関係作りに努めている。要望などがあつた時は職員の報告を受け、ミーティングで討議して改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員との個別カウンセリングを行い、運営者との相互理解を深めて、離職の防止に努めている結果、離職は稀である。両ユニット間の業務の交流や担当の異動はあるが、他事業所との異動はない。利用者のダメージを考慮して離職は知らせず、聞かれれば差し障りないように説明している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に計画は作成していないが、職員のレベルに応じて、幹部職が期待される者にはそれにふさわしい研修を、一般職には基礎的な研修を受けさせているが、年間数回程度に止まっている。いずれも受講者はホーム内で結果の報告をする。併設事業所での研修会には年に数回参加している。	○	職員の研修参加の機会をさらに増やすよう、期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、白石区の管理者会議等の機会に同業者と公式、非公式に交流し、緊密な情報交換を行っている。一般職員は、行事などの機会を利用して同業他事業所を相互に訪問しあい、体験・見学によって資質の向上を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り事前に見学し、本人が納得してからの入居となるよう、努めているが、病院からの入居の場合はそれも難しく、家族の事情によっては本人の納得が不十分なままの入居となることもある。過去の生活歴を踏まえると共に、ゲームやカラオケに興じることで馴染みが深まるような効果を工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の人格や能力を尊重し、言葉かけに工夫しながら出来るだけ一緒に仕事に参加できるようにしている。職員は利用者に育てられていることを自覚し、優しさのあり方など、学ぶことが多くあると感じている。昔の体験などから教わることも多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の違いを尊重し、個々の希望に沿った介護が出来るよう努めている。食事やお茶の時のくつろいだ談話の中で、あるいは部屋で二人きりになった時など、心底からの思いを聞き取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	新規作成の場合は、家族から本人に関する情報の収集、希望や意向の確認を行い、医療機関からは、看護方法や診療情報の提供を受け、それらの情報を基に管理者、介護支援専門員、リーダー、担当者が中心となって検討している。ミーティングで意見交換を行い家族に説明、了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に定期的な見直しを行っている。従来より歩行をしている時間が少なくなる、食事量が低下する、不穏な様子があるなどの心身の変化がある場合は、随時の見直しをしている。介護計画は、本人の状況に応じて利用者にも説明をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活用し、早期退院や入院回避を行っている。往診や訪問看護による医療処置を受けることで、事業所での生活を継続できるよう支援している。また、併設の老人保健施設のバスを使って外食会や季節行事の一環として行楽地への遠出をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向に応じてかかりつけ医への通院を継続している。管理者は、かかりつけ医と電話で相談をし、情報交換を行っている。家族が通院に同行することが難しい場合は、管理者が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	サービス利用契約時や継続的な医療処置が必要となった時に、医療行為ができないことを説明している。「重度化した場合の対応に係わる指針」を作成し、本人、家族、かかりつけ医、事業所と方針を共有している。家族の要望があれば、看取りを実施していきたいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、職員に対して利用者を自分の家族のように考え、接するように指導している。否定する言葉や大きな声を出さないよう配慮している。ミーティングは、プライバシーを考慮して、スタッフルームで実施している。	○	利用者、家族のプライバシーを確保できるよう、面会簿の形式の工夫を期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事、入浴、レクリエーション、就寝の日課はあるが、本人の意思を優先し柔軟に対応している。調理中であっても、手を止めて利用者の要望に沿うことができるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、併設の老人保健施設の管理栄養士が作成し、食材は法人全体で共同購入している。利用者の嗜好に応じて別の献立を用意したり、旬の食材を購入している。調理に参加することは、難しい状況であるが一人ひとりの力に応じて下膳などを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日から金曜日の午後に入浴の時間を設けている。週に2回の入浴を目標としており、一番風呂や最後に入りたいなどの希望を尊重している。拒否の強い利用者へは、「着替えをしましょう」と言葉をかけることで入浴への支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室や廊下に掃除機をかける、観葉植物を育てる、日めくりをめくるなどの役割を持っている。読書をする、絵を描く、習字をする、将棋や麻雀をする、カラオケを唄う、1階にある喫茶店にコーヒーを飲みに行くなどの楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	夏季は毎日、歩行能力に応じて遠距離コースと短距離コースを選んで散歩や買い物に出ている。また、中庭に用意してあるベンチに座って外気浴を楽しんでいる。冬季は、路面や天候の良い時に散歩に出かけている。外出が難しい場合は、建物内を散歩している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2ユニットの共同の玄関は、昼夜を通して施錠しているが、鍵は内側から開けることができるシステムとなっており、利用者が自ら開錠することはできる。玄関のドアに鈴を取り付け、出入りを把握している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署の指導の下に併設施設と合同の避難訓練を実施している。利用者も参加し、日中と夜間を想定した緊急通報や消火器の使用方法などの訓練を行い、その内容を写真として残している。地域の人々の協力を得ることができるよう検討中である。	○	近隣のグループホームの運営者が町内会長で、そことの連携を図りながら地域の人々との協力体制も整えることを検討中、とのことなので、その実現を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分量は、個別に記録をしている。咀嚼や嚥下の状態に応じて、刻む、とろみを付ける、ミキサーにかけるなどの調理形態を工夫している。水分は一日1500mlを目標とし、管理栄養士が、カロリー、塩分他の栄養バランスの管理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には、利用者が育てている観葉植物が並び、リビングの窓からは互いのユニットの様子を眺めることができる。リビングには、書道や水彩画、くす玉などの利用者の作品が飾っており、日めくりや書籍、麻雀卓、鏡台なども用意されている。ゆったりとしたスペースに食卓テーブル、ソファ、複数のテレビ、電子オルガンなどが置かれている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、箆笥、仏壇、テレビ、時計、椅子などの使い慣れた馴染みのある生活道具を持ち込んでいる。家具を整理する、柱の側面に緩衝材を取り付ける、暖房機の温度調整部分にカバーを付けるなどの安全面にも配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。